

学校法人静岡英和女学院  
静岡英和学院大学短期大学部  
機関別評価結果

平成23年3月24日  
財団法人短期大学基準協会

## 静岡英和学院大学短期大学部 の概要

設置者	学校法人 静岡英和女学院
理事長名	富田 多嘉子
学長名	武藤 元昭
ALO	大洋 和俊
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	静岡県静岡市駿河区池田1769

### 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
現代コミュニケーション学科		100
食物学科		80
	合計	180

### 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

### 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

静岡英和学院大学短期大学部は、評価を行った時点では下記事由に示す問題点が認められる。ただし、本協会は、当該短期大学を設置する学校法人の改善意思及び改善計画を確認したので、機関別評価を保留とした。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成21年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準の一部を満たしていないと判断した。

当該短期大学を設置する学校法人の財務体質は極めて厳しい状況にあると認められる。その改善は急務であり、抜本的な財務の改善計画が必要である。

上記以外については、おおむね次の事由により短期大学としての水準を有していると判断した。

建学の精神・教育理念は確立されており、教育活動の基盤として、様々な学校行事及び刊行物等において明確に示されている。教育目的は全学で明確に設定され、教職員・学生に周知されるとともに、適切な手続きを踏まえ点検が行われている。

教育課程は、建学の理念を反映し「基礎教育科目」と「専門教育科目」に分けられ、「現代コミュニケーション学科」、「食物学科」とも教育目標に基づき体系的に編成されている。また、学生の多様な教育ニーズに対応したきめ細かな教育の実施体制が整備されている。さらに、学生による授業評価の実施、「教職員研修会」による授業改善が行われている。

校地・校舎及び図書館、教育情報機器をはじめとする施設設備は充実している。

個々の学生の単位修得状況は良好であり、専門職への就職率も非常に高く、教育実践の効果が高いことを表している。また、学習支援も全学的な取り組みが実施されており、進度の早い学生に対する配慮も考えられている。

学生生活支援であるが、各施設とともに学生生活を送る上で、十分なものである。就職に対しても、「キャリア支援課」を中心として全学的な取り組みが行われている。留学生には、日本語科目が設けられ、学習支援上の配慮がみられる。

研究分野では、教員は積極的に研究を行っており、研究支援体制の整備も充実している。社会的活動は、公開講座の開講や社会人の受け入れ、ボランティア活動の実施など地域社会の発展に貢献している。

理事長は学校法人の中心的存在として事務局と連携しリーダーシップを発揮している。学長は諮問機関として「大学経営会議」を設けリーダーシップを発揮するとともに、教育・研究上の重要事項については、各種委員会・学科会で検討した後、教授会で審議・決定するなど教学にかかわる円滑な運営体制を構築している。

財務情報は掲示板や広報誌及び学院のウェブサイト上に掲載するなど広く一般に公開している。

自己点検・評価活動は「自己点検・評価実施委員会」が設置され、教職員が一体となって積極的に行われ、その成果として自己点検・評価報告書が平成12年度及び平成18年度の2回発行され、平成15年度には相互評価も実施されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 現代コミュニケーション学科において、「専門教育科目」を「基本科目」、「基幹科目」に区分し、四つのステージ科目に、さらにそれらを九つのユニット科目に細分し、専門知識の養成を図るとともに、学生の科目選択の自由を保障している。
- 現代コミュニケーション学科の習熟度別授業、食物学科の高等学校理科科目に対する入学前指導及び理解度試験の実施は、科目の学習効果を高めるとともに学習意欲を喚起する取り組みである。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学外者には図書館を開放し、学外利用者から高い評価を得ている。また、学生にはセミナー室・グループ学習室等を自主的活動・グループ活動・サークル活動の場として開放している。
- 現代コミュニケーション学科では、カナダ人専任教員と日本人の英語教員がチームティーチング形式でゼミを担当し授業を英語で行い、学年末にはゼミのすべての学生の記事を書いた英字新聞を発行している。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- グレード・ポイント・アベレージ (GPA) を導入し、GPA が低い学生に対し、ゼ

- ミ担任あるいはクラス担任による面談を実施するなどきめ細かな指導を行っている。
- 「成績評価に関する不服申立」の制度を設け、機関として成績評価の公正な判断・妥当性を担保している。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成15年度に北陸学院大学短期大学部との教員による相互評価を実施し、その経験を自己点検評価活動に役立てている。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 現代コミュニケーション学科において、取得者数が非常に少ない免許・資格が多々あるので、取得者数の増加を促す対策を検討されたい。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 負債が多く、短期大学部門及び学校法人全体において支出超過が続いている。財務状況の改善のための抜本的な計画に従って、財務の改善を早急に図ることが急務である。

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	否
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

初代学長により、「愛と奉仕の実践」を建学の精神に定めて以来、教育理念が確立され、教育活動の基盤として明確に示されている。学校法人のすべての教育機関において、ウェブサイトや多様な媒体を利用して、受験生、学生、教職員に対して知らされている。加えて、学生に対して、「キリスト教学入門」、「キリスト教と現代」の2科目を必修として設定し建学の精神の浸透を図っている。

教育目的が明確に設定され、その点検は、各学科のカリキュラム改正と連動して見直され、その手続きとして、学科での検討の後に教授会で審議、決議され、理事会の承認を得ることにより、共通理解のための努力が行われている。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

教育課程は、「基礎教育科目」と「専門教育科目」に分けられており、「基礎教育科目」はさらに「人間の理解」、「自然と社会」、「言語表現力」、「情報処理」、「健康管理」に細分されている。また「専門教育科目」は、現代コミュニケーション学科では、「基本科目」、「基幹科目」に区分し、四つのステージ科目に、さらにそれを九つのユニット科目に細分し、学生に2ユニットを選択履修させることで専門知識の養成とともに、学生への資格取得の支援を行っている。食物学科では、「必修科目」、「選択科目」、「展開科目」に細分され、体系的に編成されている。多様な免許・資格の取得が両学科で可能であり、学生の多様なニーズにこたえる教育課程になっている。「履修要項・講義内容」は、「授業科目」・「科目コード」・「担当教員名」・「授業の目的」・「授業の内容」・「授業の計画」・「評価の方法・基準」・「教科書」・「参考書」等の項目に分けてあり、

記載内容も学生に理解しやすい内容になっている。さらに学生による授業評価の実施、1ヶ年間に2回の「教職員研修会」の開催、専任教員と兼任教員との懇談会の開催等授業改善に取り組んでいる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数は、短期大学設置基準の教員数の規定（教授数を含む）を充足している。また「静岡英和学院大学短期大学部教員の任用に関する規程」、「静岡英和学院大学短期大学部人事委員会規程」等も整備されており、それにのっとり昇任等も的確に行われており、教員も業務に意欲的に取り組んでいる。校地・校舎は短期大学設置基準に規定する基準面積を上回っており、講義室、演習室、実験・実習室、情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、LL教室、学生自習室等も十分整備されており、各教室の機器・備品も十分整備されている。図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等も十分であり、「教育参考図書・指定コーナー」が設けられ、教員が指定した「授業に関連する図書や必読図書」が配架されおり、学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられている。また図書館を学外者にも開放し高い評価を得ている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

それぞれの授業の単位認定の方法は適切で、単位の取得状況も妥当な範囲であり、担当教員による学習評価も適切に行われている。さらに、学生からの申告による「成績評価に関する不服申立」制度を設け、機関として成績評価の公正な判断・妥当性を担保している。

また各期ごとに全科目についてアンケート方式で学生による授業評価を実施し授業終了後の学生の満足度に配慮している。

専門職への就職率も、現代コミュニケーション学科では82パーセント、食物学科では78パーセントと非常に高い。卒業生の就職先からの評価について意見を特に聴取してはいないが、就職先の求人担当者に聞くと卒業生の評価は高い。

ホームカミングデーのときに卒業生の評価を聴いている。また平成22年度からは同窓会会長が食物学科の教員であり、この教員を通して同窓会との連携を図っている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援においては、多様な選抜方法が実施されており、その方法は「入学試験要項」において明記されている。また、入学者に対しては「スチューデント・リトリート」という宿泊を伴うオリエンテーションが行われている。特別入学試験の中で社会人入試枠を設け、満60歳以上のシニア対象の社会人入試を実施しており、社会人の受け入れにも意欲的である。

学習支援も全学的な取り組みが実施されており、進度の早い学生に対する配慮や高

等学校科目未履修者に対するリメディアル教育も考えられている。また、学生生活支援は施設設備のハード面・人的配置や支援内容のソフト面ともに、学生生活を送る上で十分なものである。

就職に対しても、「キャリア支援課」を中心として全学的な取り組みが行われている。多様な学生に対する配慮であるが、留学生には、日本語科目が設けられ、学習支援上の配慮がみられる。ただし、障がいを持つ学生の対応や長期履修生制度の整備は今後の課題である。

#### 評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動であるが、積極的に行われているといえる。研究費に関しては、十分な個人研究費が確保されている。さらに学内独自の共同研究費が用意され、研究環境が整っている。また、各学科において、教育のための共同研究も行われ、紀要への投稿がされるなど、学科の教育に係る研究の推進も行われている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動に関しては、建学の精神である「愛と奉仕の実践」として重視し、その位置付けが明確であり、ボランティアセンターを設置し情報提供・相談受付を行うなど積極的に展開されている。

また、学生の社会活動の促進にも熱心である。国際交流・協力への取り組みに関しては、留学プログラムが実施されている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は学校法人の中心的存在として事務局と連携し、適切にリーダーシップを発揮している。

学長は諮問機関として「大学経営会議」を設けリーダーシップを発揮するとともに、教育・研究上の重要事項については、各種委員会・学科会で検討した後、教授会で審議・決定するなど教学にかかわる円滑な運営体制を構築している。

教員と事務職員との関係は良好である。特に、学務課とキャリア支援課の両課は学生に関する情報を教員と共有し、学生指導・教育に十分な効果が得られている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

近年の収容定員充足状況は、定員を満たさない部門が多く、学校法人の収益性に影響を及ぼしている。財務状況は、過去3ヶ年間、短期大学部門及び学校法人全体の収支において支出超過の状態が続いている。負債が余裕資金の額を大きく上回り、資金繰りが厳しい。そのような中、平成22年度入試では併設大学及び短期大学で入学定員を満たしている。また、平成26年度まで(5ヶ年)の経営改善計画及び中・長期の財



務計画が策定された。財務状況の改善のための抜本的な計画に従って、財務の改善を図ることが急務である。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

「自己点検・評価実施委員会」が設置され、平成 12 年度及び平成 18 年度には自己点検・評価報告書が発行されている。「自己点検・評価実施委員会」を自己点検・評価活動、及び第三者評価の中核とし全部の教職員が点検・評価にかかわり、改革・改善のためのシステム構築に努力している。平成 15 年度に北陸学院大学短期大学部と相互評価を実施し、教員相互の点検・評価が行われ平成 16 年度には「相互点検・評価報告書」を発行している。